

ボランティア活動通信 No.5

令和7年 10月8日

今回のボランティア活動通信では、2023年4月から開始したボランティア活動について、ボランティアのみなさんから、ボランティア参加のきっかけや、活動で印象に残っていること、興味深かったこと、楽しかったこと、ご苦労されたことなど、感想やご意見を寄稿していただきましたので、紹介します。

【活動期間】 令和5年4月～令和7年9月

【活動日】 のべ 190 日

【活動参加者】 のべ 1,379 人(ボランティア9名)

【主な活動内容】

○古文書の整理(文書のドライクリーニング

仮目録作成、データ入力など)

・福島家文書(1,477 点、入力件数 3,681 点)

・寺岡家文書(892 点、入力件数 1,041 点)

・浄福寺文書(和書 132 点)

・原家文書(121 点)

・有田家文書(2,400 点、入力件数 6,745 点)

※整理継続中

・文書の簡易な補修(糊差し)、帙作り

○「八木村旧記諸控帖」の解説(毎月1回)

○襖下張り文書・屏風下張り文書の整理



現在整理中の「有田家文書」は、三十数年前から保管されていた文書のように、およそダンボールで 80 箱くらいとのことで驚きました。この間の保管年月を思うと、文書館業務の大変さが改めて伝わったような気がしました。

受入後からの経年と数量からか、どんな文書内容が出るのか、本格的な整理作業に関心が高まるなか、整理に必要な参考資料をボランティアの方がいてねいに作成され、皆の整理作業の手助けとなっています。また、文書の分類も多岐に渡り、都度勉強になっています。

このような中で、整理進捗は今や半数以下になっていると聞き、これも驚きでした。そして、整理中、難解文などをボランティアの方々に読み解いてもらい、たいへん助かっています。感謝の思いです。

長く有田家文書を扱っていることは、焦らずにすむので、私には安心感があります。ボランティアとはいいいながら、勉強させてもらっている感が強いです。

まずは、このようなボランティアに参加させていただき、ありがとうございます。私にとっては、ボランティアに参加することは、社会に貢献したいという思いと、自分の生きがいの探求・欲求を満たす喜びも大きなことで、引き続き、ボランティアを続けて、少しでもお役に立てれば幸いに思います。

この2年余り、主として割庄屋クラスの家系の文書を整理してきて感じたことは、当時の村社会において、いわゆる「庄屋さん」が、行政・司法に絶大な役割を担っていて、その知識・見識に感心すること大なるものがありました。又、私的な文書・書簡には人情味のあるものもあり、ほほえましい人間関係もうかがい知ることができました。

ほぼ同年代で、気心の知れたボランティア仲間と和気あいあい、それぞれの知識を出し合い、話し合いして、文書整理を進めることが何よりの喜びであり、楽しみです。これからも、皆元気で続けられることを願います。



文書整理中、「武一騒動」に関するらしい文書に遭遇、興味深い時間を過ごすことができました。反面、女性の書状には苦労、平安や中世のちらし書きも、まるでクイズだと思ってきましたが、近世の女性の手紙も、又、男性とは異なる文字や言葉の使い方があるようで、新たに「学びたい」と思いました。と同時に、その女性の家庭や、一族の中での立場、担っている役割まで読み取れるようになれば…。

2～4月に長く休みを頂き、ご迷惑をお掛けしました。その間、皆さんが交代で、データ入力などをしていただき、感謝しています。

皆さんの作られた目録は、それぞれ作成される方の特徴があり、拝見するのが楽しみです。

Excel の勉強を兼ねて、関数などを使ってデータ入力の効率化の工夫などを考えて実施することも、密かな楽しみとしています。

たまには、ボランティア主体の飲み会などの実施もいいのではないかと思います。

近世崩し字は、学生時代の「古文書を読む会」以来、岡山藩『池田家履歴』のほかはほとんど読んだ経験がないので、解読に苦労しています。しかしわからない字を職員やよく読める仲間に教えてもらいながら、なんとかやっています。とくに書簡は読みづらいのですが、数をこなすなかで、以前は飛ばしていた紋切り型の時候の挨拶部分が(ほぼ)すらすら読めるようになったことが、目に見える成長です。

文書の整理をとおして、地域社会の諸問題が割庄屋・庄屋たちの頻繁な書簡交換・集会によって処理・解決されている様子が具体的にわかりました。名望家集団による地域自治システムが機能しているように見え、幕藩体制下の地域社会のイメージが大きく変わりました。藩と地域社会を媒介する郡役所の常駐役人、足軽身分の「御番組」の活動の重要性にも気付きました。最近たまたま読んだ恩田木工『日暮硯』(信州松代藩で藩政改革)に、役目で入村する足軽の賄賂要求に疲弊する村落の救済のため、足軽入村の禁止を提案する記述があり、「御番組」を考えるうえで必要な視点だと思いました。

目録作成作業を始めて間もないころ出会った、「無宿人ちよ」に関する一件文書は衝撃的でした。機会があれば、「ちよ」の数奇な運命をとおして、近世後期の地域社会の実相を眺めてみたいものです。

休憩＝昼食時間の雑談は楽しいひとときです。仲間のみんなで定期的に飲み会をしたいものです。

事の起こりは、被災文書のレスキューに参加した事が始まりです。

次に同じ時期に被災した戦国時代に実際に使用された武将(由緒書がなく、誰のものが不明、指導をいただいた先生のお話です。)の甲冑のクリーニング、そして、少し間をおいて現在に至ります。

古文書に関しては、歴史好きが高じて読み始めたので、全くの素人です。ボランティアでは、文書館の職員の方、ボランティアの皆様に助けられて活動しています。後世の研究者の皆様、間違えて解釈していましたらお許しください。活動の中で、皆さんとの談笑、そして難解文字の解読と有意義な時を過ごしています。

退職して10年余りですが、現役時代では想像すらしなかった職種のボランティア活動です。脳トレにもなり、外に出掛けますので、刺激にもなります。ライフワークとして続けられるよう研鑽を積む所存です。

古文書整理中にたくさん絵図があり、当時のことを想う。癖のある字で書かれた書簡の解読に時間がかかる。古文書整理を行う事が楽しい。

2年間同じメンバーで変わりなく週2回の作業が行われています。

1日4時間ではとても片付きそうもない量の資料のようですが、着々と作業は進んでいます。

私自身の解読力は未熟ですが、遠慮せず相談し助け合える心地よい時間です。

幕末、100人近い庄屋のいる賀茂郡村々の様子が現れてくる事を期待しています。

